

学校評価（自己評価）報告書（項目別表）

平成28年度

学校名	筑波大学附属高等学校
-----	------------

項番	評価項目	具体的評価結果
1-2-1	学校の教育課程の編成・実施の考え方についての教職員間の共通理解の状況	全教員で指導している「SGHに関する事業」において校内研究会を数回実施し、共通理解を図った。また、新教育課程実施に向けて、今後の見通しを確認し、取り組むべきことの確認を行った。
2-1-5	適切な勤労観・職業観など主体的に進路を選択する能力・態度の育成のための指導（キャリア教育等）の状況	2学年次における、卒業生による「進路説明会」の実施や、SGHの取り組みによる国際的視野の拡充により、幅広い視野を養い、「自主・自律」の活動の実践と一貫として、進路選択の能力・態度の育成を継続している。お茶の水女子大学附属高校との合同での「キャリアプログラム」開発に着手し、次年度からは具体的内容の検討に入る。
3-2-1	自ら考え、自主的・自律的に行動でき、自らの言動に責任を負うことができるような指導の状況	「自主・自律・自由」は本校のモットーである。生徒はこのモットーを、様々な場面で言葉として表現し、自覚を持って行動している。教師は生徒の活動を見守り、指導が必要な場面を的確に判断してバックアップするように努めている。歴史的にも、日常的な指導方法として実践されている。
5-1-1	学校事故等の緊急事態発生時の対応の状況	安全面への配慮を重点目標とし、緊急事態発生時の速やかな連絡を徹底した。細かい事故なども報告が上がるようになり、管理体制の充実を図ることができた。また、事故が起きないようにする為、日頃の安全配慮に対する意識改革に取り組むこととした。
10-1-2	学校公開の実施の状況	一般中学2，3年生向けに、年4回の学校説明会、授業体験会を、日常的には1週間に1回の学校説明会を実施した。授業体験により、本校の授業の実際を伝え、在校生による説明も実施することで、より深く本校を理解してもらえるように努めた。SG活動報告会、研究大会を実施し、研究活動を全国の教師に発信した。
12-1-3	大学、附属学校教育局と連携した施設・設備の安全・維持管理のための整備（耐震化、アスベスト対策を含む）の状況	老築化した校舎の、改修・改築を目指す要望の提出の継続を図った。特に、緊急時における避難経路の安全確保に関しての確認を行い、次年度に向けて廊下物品の廃棄・再利用・移動の決定をおこなった。近隣住民（校舎周囲）からの樹木伐採の要請への対応が多くあった。
14-1-4	教員養成・教師教育	国内は元より、海外からの教師研修を多く受け入れ（北米・トルクメニスタンなど）、ディスカッションを通して、本校の教員の研修も合わせて実施し効果を上げた。大学生の教育実習については、筑波大学学生及び本校卒業生を約30名2期に分けて受け入れ、実習生同士の報告会を開くなど、本校独自の取り組みを行った。
14-1-5	国際交流・国際貢献	SGHへの取り組みを柱として、様々な形での国際交流を実施した。生徒の海外派遣事業に関しては、新規にプリンスエドワードアイランド大学（カナダ）での研修プログラムを開発し成果を上げた。また、G7ジュニアサミットの東京プログラム、及び中国、シンガポールからの短期派遣を、本校生徒宅へのホームステイとして受け入れた。